

1. 町の未来に向けて時計の針をどのように動かそうとしているのかを問う

小田原市・南足柄市「中心市のあり方」に関する任意協議会の背景を考えると大きな示唆を与えてくれるものと言える。中核企業の撤退等自治体運営の前提が崩れた時どのような事態になるのか想像するに難くない。現在はいつ何が起きてもおかしくない状況である。近隣の他町も明日をつくるために懸命に努力している。

本町は先人の先見性もあり順調に発展を遂げてきたが未来に影の部分が目立つようになっていることは明らかである。第五次総合計画が時代の要請に応えるものか、今再検討すべきと考える。時計の針を動かさなければならない。県西地域の広域連携はますます深まっていかなるをえないが、町の体質が強くなければ町民の利益となる連携も希望が持てない。常に危機意識と緊張感をもつことが肝要と考える。そこで次の質問をする。

- ① 第五次総合計画実行上の課題を詳細に検討し、町のビジョンを再構築する考えは（事業の優先順位付けと町民の知恵を結集する仕組みが不可欠）。
- ② 事業の具体的ゴールと工程表の作成及び年度毎の進捗を町民参加でモニタリングをする考えは（PDCAの徹底）。
- ③ 財務の将来図は（税源の多様化と充実及び臨時財政対策債をどう認識しているか）。